
実践報告

韓国における世代統合、そして「ソロイウム（結び合い）」の挑戦

ジャン・ミナ、ジュ・ジヒョン、カン・ヘウオン

翻訳：パク・スキョン

Generational Integration in Korea: Challenges of the Institute of Transforming
Family and Generation SEOROEUM

Mina CHANG, Jihyun JOO, Hyewon KANG
(Translation) Sookyung PARK

家族世代統合研究所「ソロイウム（結び合い）」は、韓国政府（保健福祉部）が認可した社会的協働組合として、児童学、家族学、老年学及び福祉専門家により構成される研究所である。ソロイウムは、韓国初の研究者の協働組合である。専門研究結果を実践現場へ効率的に伝える架け橋の役割を担う為の取り組みを行うとともに、研究者の良心と専門性に基づく社会的革新活動を追求している。本稿では、このソロイウムの概要を述べるとともに、ソロイウムが世代統合関連のプログラムを企画した背景を説明した。次いで、ソロイウムがこれまで行ってきた世代統合関連の主なプログラムを紹介した。また、社会サービス領域の研究・調査を紹介した。最後に、ソロイウムの沿革を年代順に示した。

キーワード：韓国、世代間葛藤、世代統合

1 「ソロイウム」について

家族世代統合研究所「ソロイウム（結び合い）」は、韓国政府（保健福祉部）が認可した社会的協働組合として、児童学、家族学、老年学及び福祉専門家により構成される研究所である。ソロイウムは、韓国初の研究者の協働組合である。専門研究結果を実践現場へ効率的に伝える架け橋の役割を担う為の取り組みを行うとともに、研究者の良心と専門性に基づく社会的革新活動を追求している。

ソロイウムは、韓国社会における疎通と和合のために、教育、研究、コンサルティング、相談及

びキャンペーンを行っている。特に、様々な実践現場の欲求に基づくプログラムを企画するとともに、研究者達の協業に基づく実践活動を通して社会公益を求めるための取り組みを行っている。

(1) 研究遂行、プログラムの企画及び運営

ソロイウムでは次のような事業を行っている。

- ①世代統合の価値を実現するための研究（自主研究、委託研究、共同研究等への参加）。
- ②社会問題の解決及び価値実現のための、プログラムの企画及び教育。
- ③性、年齢など、人口学的な特性や組織の特性

等を考慮したカスタマイズ型のプログラムの企画及び進行。

(2) 組合員

ソロイウムは、研究、開発、教育などが可能な人材で構成されている（下記の役職名は本稿執筆時点のものである）。

- ・理事長 ジャン・ミナ

家族学・老年学博士（ソウル大学校）

ソウル大学校生活科学大学研究教授、同大学校第 3 期人生大学副主任教授、

中央健康家庭支援センター（教育・評価）

- ・理事 ジュ・ジヒョン

家族学・老年学博士（ソウル大学校）

ソウル大学校老化高齢社会研究所研究員、同大学校第 3 期人生大学講師、

明知大学校社会福祉大学院客員教授

- ・理事 カン・ヘウォン

ソウル大学校家族学・老年学博士課程修了

社会福祉法人サンミョン福祉財団理事、遠隔生涯教育院社会福祉士科目群コンテンツ開発教授、ソウル市 50 プラス財団 50 プラスポータル家族・精神保健分野メンター

2 世代統合関連のプログラムを企画した背景

ソロイウムは、2013 年の創立当時より、人口高齢化による世代間の葛藤を韓国社会の主なアジェンダとして認識し、世代間葛藤の予防及び解消に対し、研究所の力量を集中しようとしている。2016 年に起こった政治的事件で、「世代間葛藤」問題が、韓国社会において全面的に登場した。これにより、世代間葛藤の問題は韓国社会の統合を損ない発展を妨げる障害物である、という認識が広く醸成された。このことを受け、本研究所における事業の方向性がさらに明確になった。

韓国の場合、2000 年代後半から、社会福祉実

践現場において世代統合関連のプログラムが行われているが、大多数のプログラムでは主に、1 - 3 世代あるいは 1 - 2 - 3 世代が集まり、体験活動（例えば、キャンプ、料理、ボランティア活動等）をしながら、相互への理解を図る方法で行われてきた。

このようなアプローチは、お互いの世代に対する理解の乏しさや偏見等を根本的に打破するためには限界がある。特に不遇な高齢者層を対象としてプログラムが施行されるため、「社会的弱者」という高齢者に対するステレオタイプが固着されるという否定的な効果が発生する。

ソロイウムは、他の世代を理解する前に、自分の世代を先に理解し、共同体社会の市民として他の世代といかなる方法で疎通と共感が可能であるかを模索することが第一であると判断した。そのため、専門家の介入の下、世代への理解、世代統合のための役割を考察し、生活の中での実践方法を模索するプログラムとして世代統合プログラムを開発・実行している。また、この世代統合は官主導ではなく、市民の参加を通して運動が展開されることが望ましいと考えている。

3 世代統合関連の主なプログラム

ソロイウムが行う世代統合関連の主なプログラムに以下のものがある。

(1) 「本物の大人」として生まれ変わる一中高年層対象の教育・実践プログラム

概要 健康な疎通と共感の主体として大人（本物の大人）の役割を悩み、実践方法を模索する。地域社会老人福祉館単位で実施する。

内容 中・老年期における変化の理解、社会貢献及びボランティア活動の意味、自己探索、親／夫婦関係の再交渉、死の準備教育、疎通の技術、大人役割の探索など。

代表的なプログラム 「3 通プロジェクト」

－ 70～80 歳代を対象とするプログラム（私との疎通 + 家族との疎通 + 社会との疎通 = 3 通）。「イ
オアドバイザー」－ 50～60 歳代を対象とするプ
ログラム。



資料出所：筆者提供

(2) 「高齢者政策モニタリング団」のワークショップ

概要 済州地域のエイジフレンドリーシティの支援、及び、WHO のエイジフレンドリーシティ国際ネットワークへの加入のための「高齢者政策モニタリング団」の力量強化を目的とするワークショップを企画し進行する。2017 年度に

第 1 次、2018 年度に第 2 次を実施した。

内容 エイジフレンドリーシティの理解、政策モニタリング団の役割及び政策評価技術（方法論）に関する教育・討論・発表を行うとともに、世代統合を地域社会に広げるための実践戦略を模索する。

連携機関 済州発展研究院



資料出所：筆者提供

(3) 公務員対象の世代統合教育プログラム開発の実施

概要 本研究所が地方自治体公務員を対象とする世代統合教育プログラムを国内で初めて開発し、2018 年度に第 1 次を実施した。

内容 ①済州島地域の公務員と地域社会保障協議体委員らを対象に、世代統合教育プログラムを開発・実施する。②地域住民対象の政策・事業・プログラム開発に地域専門家が世代統合パラダイムを適用できるように支援することに重点

を置く。

連携機関 済州発展研究院

(4) 中高年が作る「中高年学教室」

概要 中高年の生活の期間拡張と意味が変化することによって、社会的／個人的発達課題に対する点検及び世代間統合における中高年役割の模索が必要な時点である。これを受け、本研究所は韓国初の「中高年学教室」を開設し、ソウル市と連携して教育を行う。

内容 引退前後のベビーブーマーを対象に、中高年期に入ってから悩むようになる生活の領域等を考察しながら、100歳時代・長寿社会におい

て新たに浮き彫りになる生活の過程である中高年期を、自ら悩み、うまく年を取っていくための方法を提示する。特に世代間疎通の絆として、中高年の役割と実践方法を模索して提示する。2017年より実施している。講義の構成は、中高年期と関連する様々なテーマに対する講義（中高年の意味と役割、家族関係、疎通、中高年の社会参加、死及び悲嘆過程等）・討論・主題探求活動・研究結果発表（コロッキアム開催）／デスカフェ（Death Cafe）となっている。

連携機関 ソウル市及びソウル市傘下機関・京畿道及び傘下機関・大学・区役所等。

カリキュラム 機関からの要請、参加者の要

	日付	プログラム	
1	9.6（水）17-20時	新しい始まり	中高年に出会う9つ質問
2	9.13（水）17-20時	成長と自由	ヴォイスセラピー 音の振動に従っての旅
3	9.20（水）17-20時		私が準備する死
4	9.27（水）17-20時		性格変化と発達
5	10.11（水）17-20時	調和	家族、関係の再交渉
6	10.18（水）17-20時		中高年の性変化と健康
7	10.25（水）17-20時		年齢差別へ挑戦する
8	11.1（水）17-20時	方法論ワークショップ	
9	11.8（水）17-20時	日常	心の習慣とメンタルヘルス
10	11.15（水）17-20時		成熟な財務設計
11	11.22（水）17-20時	主題探求のためのメンタリング	
12	11.29（水）17-20時	コロッキアム開催	

資料出所：筆者作成

図1 「中高年学教室」のプログラム例



資料出所：筆者提供

望、ソロイウムの判断等によって、会期の長さと構成を調整して運営する。

(5) 夢を掴む子供

概要 ソロイウムの研究者が開発・進行する児童・青少年対象の「世代共感と疎通教育」プログラムとして、2014年より行政自治部認証の「1365 ボランティアプログラム」を行っている。児童・青少年の老人世代に対する理解が非常に乏しい現状においては、年齢差別的な認識を改善する教育が必要である。これを受け、本研究所は世代共感と疎通のための教育とキャンペーンを、ボランティア活動として企画して進行している（行政自治部のボランティアプラットフォームと連携

して、学生達がボランティアの活動を行った時間として認証している）。

内容 老化及び高齢社会の概念、年齢差別の弊害、高齢社会到来による社会構成員の準備、世代間の共感と理解を通じた疎通を試みるための実践戦略の模索等。

構成 教育、体験、キャンペーン活動を行う。

対象 2015年4月から現在まで、約700名の児童・青少年が参加している。

効果 老化に対する誤解と偏見から脱し、世代統合と共感のために実践できることを自ら発掘する経験を与える。



資料出所：筆者提供

(6) 市民と共にする地球村分ち合いの場

概要 「夢を掴む子供」のボランティアが、市民を対象に、世代共感、社会統合の重要性を知らせるキャンペーン活動を行う。

内容 本研究所のプログラムに参加した児童及び青少年ボランティアが主軸となり、ソウル市

フェスティバルに参加した市民を対象に、世代統合の意味、年齢差別の弊害、世代共感のための実践方法などを知らせるキャンペーンを2016年5月に展開した。



資料出所：筆者提供

4 社会サービス領域への研究・調査活動

ソロイウムが行ってきた研究・調査活動に以下のものがある。

- (1) 委託研究 ソウル市老人住居福祉の実態及び欲求調査： 地域適合型老人住居福祉欲求現場調査（2018年7月）

ソウル福祉財団の委託による調査。ソウル型老人中心の地域社会住居と介護サービスの提供及び地域社会内における安全生活を支援するサービスとシステム作りのための根拠を提示した。

- (2) 共同研究 ソウル市福祉政策評価及び中長期発展方策研究（2018年8月～11月）

ソウル市プラス50財団との共同研究。ソウル市福祉政策の予算及び主要事業に対する定量的・定性的評価を通して、ソウル市民の生活の変化を眺望し、市民参加に基づくソウル市福祉中長期発展方策の提示を試みた。ソロイウムは、ソウル市福祉政策のうち、50プラス財団の事業の成果を多様な角度から考察することで、今後の中老年層向けの福祉サービスの方向を提示する課題に共同で取り組んだ。

- (3) 共同研究 ソウル市ボランティアセンターのボランティアのオンラインプラットフォームの成果体系開発研究（2017年9月～12月）

ソウルボランティアセンターとの共同研究。ボ

ランティアのオンラインプラットフォームである「V世界」の活性化及び効率的な運営体系構築のための成果体系を開発した。

- (4) 共同研究 社会サービス認証制度の成果及び改善方策研究： ソウル型高齢者介護施設を中心に（2017年6月～10月）

ソウル福祉財団との共同研究。「良い介護認証制度の設計」を通じて、介護認証指標の開発及び介護の制度と改善方策の研究を行った。

- (5) 委託研究 敬老堂コーディネーター事業評価研究（2015年11月）

ソウル市社会貢献型雇用と関連する研究。ソウル市敬老堂コーディネーター事業（3カ年）の進行過程及び成果の評価を実施した。参加者であるベビーブーマーの生活の変化、需要先である敬老堂の変化、及び、中老年の社会貢献モデルの可能性を評価し、1－2世代間の疎通と統合の場となり得る敬老堂空間の活用を提言した。

- (6) 委託研究 ソウル市人生二毛作支援センター1周年機関評価研究/1周年記念セミナー（2014年2月～3月）

ソウル市人生二毛作支援センターの開館1周年記念評価研究を行った。その結果に基づき、1周年記念セミナーと全職員研修を実施（ソウル市役所）し、中老年層の世代統合のための社会的な役割を提言した。

5 ソロイウムの沿革

ソロイウムの沿革は以下の通りである。

- ・ 2013年2月 家族世代統合研究所を共同組合として登録
- ・ 2013年6月 Duranno Father School「国軍予備父親学校」のプログラムの評価研究
- ・ 2013年6月 「家族アカデミー」を運営
- ・ 2013年9月 ソウル人生二毛作支援センターと業務協約
- ・ 2013年11月 ソウル人生二毛作支援センター「お話採録家*」養成課程の企画及び教育
[※記者注：お話採録家とは、高齢者によって口述される個人生涯史及び地域社会の歴史を聞いて記録して、文字として残す人をいう。]
- ・ 2014年2月 ソウル人生二毛作支援センター1周年機関評価研究を遂行
- ・ 2014年5月 ソウル市引退者共同組合と業務協約
- ・ 2015年2月 論峴老人福祉館と業務協約、高齢者対象の「父親アカデミー」の企画及び進行
- ・ 2015年4月 行政自治部「1365 ボランティア」の需要先として登録
- ・ 2015年5月～現在 青少年ボランティア学習及びキャンペーンの進行
- ・ 2015年10月 ソウル人生二毛作支援センター「中高年齢層のボランティア養成教育」（第5会期）の企画及び進行
- ・ 2015年11月 ソウル人生二毛作支援センター「敬老堂コーディネーター事業（3年）」の評価研究
- ・ 2016年4月 ソウル市主催「第20回地球村分ち合いの場フェスティバル」に、国内唯一の分ち合い団体として選定され参加
- ・ 2017年4月～6月 サランチュエ老人福祉

館（京畿道義王市）「父親アカデミー」（第12会期）教育の企画及び進行

- ・ 2017年4月 済州市「エイジフレンドリーシティ『シニア政策モニタリング団』」教育ワークショップの企画及び進行
- ・ 2017年6月～10月 社会サービス認証制度の成果及び改善方策研究（共同研究）
- ・ 2017年7月 ソウル市 50 プラス財団中部キャンパス「甘い疎通」（第4会期）教育の企画及び進行
- ・ 2017年7月 保健福祉部認可の社会的協働組合として組織変更
- ・ 2017年9月～11月 ソウル市 50 プラス財団中部キャンパス「中高龄学教室」の企画及び進行
- ・ 2017年9月～11月 ソウル市・ソウル市立大学校「ソウル市民と共にする中高龄学教室」の企画及び進行
- ・ 2017年9月～12月 ソウル市 ボランティアセンターのボランティアのオンラインプラットフォーム成果体系の開発研究
- ・ 2018年2月 日本女子大学（東京）で開催された“Expert Workshop on Intergenerational Exchange and Generational Integration”において韓国の世代統合事例を発表
- ・ 2018年3月～6月 ソウル市自由市民大学「ソウル市民と共にする中高龄学教室」の企画及び進行
- ・ 2018年3月～5月 水原市傘下機関等「中高龄学教室」の企画及び進行
- ・ 2018年2月～現在 ソウル大学校等の学部生及び大学院生向け講義（特講）「社会的協働組合ソロイウムの挑戦と実践」を担当
- ・ 2018年4月 ソウル市 50 プラス財団中部キャンパスで講義（特講）「死、事前に

知っておくと、良いこと」を担当

- 2018 年 6 月 ソウル市冠岳区健康家庭支援センター/ソウル大学校「第 3 期人生大学」の企画（中高年自叙伝）及び進行
- 2018 年 5 月 済州市「エイジフレンドリーシティ『シニア政策モニタリング団』（第 2 期）教育ワークショップ」の企画及び進行
- 2018 年 7 月 ソウル市福祉財団老人住居の実態及び欲求調査：地域適合型老人住居福祉欲求現場調査
- 2018 年 3 月～11 月 済州発展研究所「世代統合プログラム開発：公務員及び従事者対象」
- 2018 年 8 月～11 月 ソウル市福祉政策評価及び中長期発展方策研究（共同研究）
- 2018 年 10 月～12 月 ソウル市 50 プラス財団中部キャンパス「中高年学教室：ソウル中高年 talk talk」の企画及び進行

〔付記〕 本稿の翻訳にあたり JSPS 科研費 15K03967 の助成を受けた。